

「地下水について学ぶ」

今、日本では水道などのライフラインが整備され、生活はどんどん便利になっています。それにより、水の使用量も増えていきますが水のありがたみは薄れているのではないでしようか。そこで、私たちの生活を支える水について調べてみることにしました。

地球は『水の惑星』といわれていますが、実際には地球上に存在する水の大半が塩水であり、淡水はわずか二・五パーセントにすぎません。しかもその淡水の七〇パーセント近くが氷河などの氷で人間が使える水はわずかに七・五パーセントしかありません。そしてそのほとんどが湖や河川など目に見える水ではなく、地下水です。

地下水は、地面の下に存在するもので、普段目にすることはあまりありません。しかし、実際には地下水は私たちの生活に大きく関わ

山添村立山添中学校 三年

奥村 彩美

っています。農業や工業に地下水はもちろん欠かせませんが、例えば、自動販売機で買うことのできるミネラルウォーターも地下水を汲み上げたものです。また、水道から出てくる水も地域によつては地下水を利用しています。このように、意外に身近で使われている地下水ですがどんなものなのでしょう。

地下水とは地面の中の土の隙間に存在する水のことです。隙間を縫うようにして、主に水を通しやすい目の粗い地層の中をゆっくりとより低いところへ流れていきます。しかし、その速度は地形や地質によつて様々ですが一年に一メートルも進まないところもあります。また、同じ地下水でも二週間前に降った雨が地面に浸み込んだ場合もあるし、何万年前に降った雨が未だに地下を流れている場合もあります。乾ききったサハラ砂漠の下にも地下水

水はあります。それはサハラが緑豊かだった
はるか昔、二、三万年前に降った雨が今も地
表から八〇メートルほどの地下にあるからで
す。このように、雨が降り新たな地下水が作
られています。

降水量が多い日本は水資源に恵まれた国な
ので、多少人間が地下水を使ったとしてもそ
れを上回る豊富な地下水が作られています。
しかしサハラ砂漠では日本とは違い、ほとん
ど雨が降りません。サハラ近郊の街の年間降
雨量は三ミリなので、現在ほとんど地下水は
作られていません。なので、地下に眠る水を
使ってしまったら残りません。また、量
だけではなく、地下水の質にも注目すると人
間は大きな影響を与えています。『窒素飽和』
というのは人間の影響で、森の栄養源である
窒素が森の土壌に過剰に供給されている状態
のことです。窒素飽和は河川や地下水の水に
も大きな変化をもたらしています。

こうしたことから、良くも悪くも人間は地
球の水循環の一部となっています。なので今
後私たち人間は地球に存在する淡水のほとん
どを占める地下水のことをきちんと理解しコ

ントロールしていかなければならないと思
います。それは水がめぐっている自然環境を守
ることもなると思うし地球の未来にも良い
影響を与えることになると思います。そのた
めにも地下水をはじめとする自然の中に存在
する水に意識を向け考え行動していくことが
大切だと思います。『二一世紀は石油の世紀
だったが、二二世紀は水の世紀だ』といわれ
ているので、二二世紀を担う私たちが水につ
いて知識を持ち資源を未来に引き継いでい
かなければならないなあと思いました。